

○議長 横尾 武志君

1 1 番、益田議員の一般質問を許します。益田議員。

○議員 1 1 番 益田美恵子君

おはようございます。1 1 番、益田美恵子、一般質問をいたします。通告書に従って行ってまいりますので、よろしくお願いいたします。

特定健診についてでございますが、生活習慣病の予防を目指して、特定健診が 2 0 0 8 年春、健康診断に導入され、現在実施をいたしております。

その中で、1、特定健診の推移と今後の予測について、2、国保の健診率が上がらない理由について、3、健診率を上げるための取り組みについて、4、胃がん検診にピロリ菌検査の導入をしていただいたらどうでしょうか。

件名 2、3 ワクチン接種実施状況について、1、子宮頸がん予防ワクチン、2、ヒブワクチン、3、小児用肺炎球菌の各対象者数、受診者数をお願いいたします。

件名 3、厚生労働省が 2 0 1 2 年から導入する新制度についてお尋ねいたします。

1、2 4 時間地域巡回サービスの創設について、2、複合型サービスの新設について、この 2 点を今後どのように展開していくのか、お尋ねいたします。

件名 4、文科省が発表した学校教育について、柔道を含む武道が必須科目とのことだが、どのような導入の仕方をされるのかということにつきましては、先日の松上議員の一般質問の折に丁寧な答弁がございましたので、その中で理解をさせていただいておりますので、取り下げをさせていただきます。

件名 5、中央公園のリニューアルについて、子ども、大人（高齢者）が元気はつらつとされるような健康遊具の設置をしてはどうか、ということについて第 1 回目質問とさせていただきます。

○議長 横尾 武志君

執行部の答弁を求めます。住民課長。

○住民課長 武谷久美子君

では、件名、特定健診について、要旨 1、特定健診の推移と今後の予測についてご答弁させていただきます。

平成 2 0 年度から高齢者の医療の確保に関する法律に基づき、糖尿病などの生活習慣病の有病者、予備群を減少させることを目的として、特定健康診査及び特定保健指導が義務化され、4 年が経過しました。受診率の推移といたしましては、平成 2 0 年度は 1 7. 5 %、2 1 年度は 2 0. 5 %、2 2 年度は 3 2 %、2 3 年は現在のところ 3 0. 3 % で前年度並みの受診率になるのではないかと見込んでおります。

特定健診におきましては、国が定めた目標値は平成 2 4 年度に受診率 6 5 % にすることが求め

平成 24 年第 1 回定例会（一般質問）

られており、最低でも 33% の受診率を超えなければ、ペナルティとして後期高齢者支援金の負担金が増額される可能性があります。このことを踏まえまして、24 年度にはぜひ 33% 以上の受診率達成に向けて努めていきたいと思っております。

続きまして、要旨 2、国保の健診率が上がらない理由についてですが、平成 21 年度に特定健診アンケート調査を行ったところ、回答者の 70% が「特定健診のことは知っている」との回答でした。受診しなかった理由についてみると、「通院して血液検査などを受けているから」が 50% と最も高く、約半数となっております。次に、「時間がないから」が 18%、「どこも悪くないから」「心配なときはいつでも受診できるから」が 16.4% となっております。

このアンケート調査に基づき、特定健診対象年齢者のレセプトなどのデータを分析しましたところ、特定健診の検査項目のすべてを検査している方は少なく、日ごろ検査しない項目を検査できるのが特定健診であることを理解されていないことが健診率の上がらない一番の要因と考えられます。

続きまして要旨 3、健診率を上げるための取り組みについてですが、平成 21 年度から平成 22 年度に健診率が 11% 伸びた要因といたしましては、全戸訪問を行い、特定健診の必要性を伝えた成果と思っております。平成 23 年度は受診経験者への勧奨を重点的に行い、医療機関との連携強化と、一人でも多くの方に特定健診を受けていただくために受診しやすい体制の整備に取り組んできました。

平成 24 年度はいよいよ健診評価年度です。目標受診率達成に向けて全戸訪問を再開いたします。未受診者については、制度についてのきめ細やかな対応と説明を行い、健診制度の理解と普及啓発に努めていきます。

また、受診経験者の健診時期を把握して前年度の健診月に近い時期に機会をとらえて勧奨を行い、継続した受診となるような支援も行っていきます。

また、先日の広報でも募集いたしました健康づくり推進員（元気に暮らし隊）の皆様方に健診受診の普及啓発を行ってもらうことにより、住民の機運を高め、健康づくりを住民運動として展開できるように意識改革を図りながら、今後健診率の向上に邁進していきたいと思っております。

続きまして要旨 4、胃がん検診にピロリ菌検査の導入についてというご質問ですが、現在、胃潰瘍などの原因としてピロリ菌との関連性は認められておりますが、胃がん検診としてピロリ菌感染の有無を調べることは、国が定めるがん検診指針に定めておりません。

まだ実施している自治体も少なく、今後国の動向を見守っていきたくて考えております。

続きまして、件名 2、3 ワクチン接種状況について、要旨 1 です。3 ワクチンの対象者数、接種者数についてご答弁させていただきます。

まず、子宮頸がん予防ワクチンは、中学 1 年生から高校 2 年生相当の女子が対象で、平成

平成 24 年第 1 回定例会（一般質問）

23 年度対象者は 382 名、そのうち接種を始めた女子は 292 名、接種率は 76.4% となっております。

次に、ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンですが、この 2 つのワクチンを打つことで、細菌性髄膜炎を予防することができます。ゼロ歳から 4 歳までの乳幼児が対象となり、ヒブワクチンの接種状況といたしましては、23 年度におけるゼロ歳の対象者は 137 名、そのうち接種を始めた乳児は 119 名、接種率は 86.9% で、発症の時期がゼロ歳の乳児に最も多く、生後 2 カ月から接種を始めることから、高接種率となっております。

また、1 歳から 4 歳までの 23 年度の対象者は 543 名、そのうち接種を始めた幼児は 153 名、接種率は 28.2% となっております。

次に、小児用肺炎球菌ワクチンの接種状況といたしましては、23 年度におけるゼロ歳の対象者は 137 名、そのうち接種を始めた乳児は 116 名、接種率は 84.7% となっております。

また、1 歳から 4 歳までの 23 年度の対象者は 543 名、そのうち接種を始めた幼児は 176 名、接種率は 32.4% となっております。

以上です。

○議長 横尾 武志君

福祉課長。

○福祉課長 松田 義春君

件名 3 の厚生労働省が 2012 年から導入する新制度についてということでございますが、これは昨年、介護保険サービスの基盤強化のための介護保険法などの一部を改正する法律が施行されました。

これは高齢者が地域で自立した生活を営めるよう、医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスが切れ目なく提供される地域包括ケアシステムの実現に向けた取り組みを進めるということにございます。

この中に 6 つの大きな項目がございますが、その中の一つに医療と介護の連携の強化がございます。さらにその中に、単身重度の要介護者に対応できるよう 24 時間対応の定期巡回、随時対応サービスや複合型サービスを創設するということが上がっております。

まず、この 2 つのサービスにつきましてご説明いたしますが、まず 24 時間地域巡回サービスにつきましては、先ほどちょっと申しましたように、日中、夜間を通じて 1 日数回の定期訪問と、随時の対応を介護、看護が一体的に、また密接に連携しながら提供するサービスでございます。これによりまして、介護度が中、重度の在宅生活を可能にする上で重要な役割を担うサービスでございます。

複合型サービスは、今まで別々の事業所が行ってございました小規模多機能の居宅介護と、訪問

平成 24 年第 1 回定例会（一般質問）

看護が 1 つの事業所で両方の機能を有したものでございます。

2 4 時間地域巡回サービス及び複合型サービスは、これは介護保険の保険者であります福岡県介護保険広域連合が事業所を指定することとなっております。

広域連合のほうに確認いたしましたところ、この 2 つのサービスとも実施することとしております。ただし、両サービスを提供できる事業所があるかどうかの問題であるとのことでした。郡内におきましては、今のところ手を挙げている事業所はないということでございます。

以上です。

○議長 横尾 武志君

環境住宅課長。

○環境住宅課長 入江 真二君

それでは、件名、中央公園のリニューアルについて、子ども、大人が元気はつらつとなれるような健康遊具の設置について、ご回答させていただきます。

中央公園は昭和 4 4 年に開設され、4 2 年を経過しております。公園施設の老朽化及び公園に対するニーズの変化などに伴い、今回整備を行うために町民の皆様の要望をできる限り設計に反映できるよう、ワークショップという手法を取り入れて基本設計を行っております。

ワークショップのメンバーは、公園を利用される方の中から近隣自治区代表の方を 1 2 名、各種団体の方を 1 0 名、商工関係から 2 名、合計 2 4 名の方に参加をいただきながらご意見を伺い、現在基本計画案の最終案の策定を進めております。

ご質問の健康遊具については、第 1 回目のワークショップの中でも「子どもだけでなく、高齢者も運動できる遊具があればいいね」というようなご意見をいただいておりますので、計画案には健康遊具の設置を予定しております。

中央公園の基本設計に関しましては、あらゆる世代が集い、憩うことができる場所として、小さな子どもさんから高齢者の皆さんが楽しめる、そして皆さんから大事にされる公園にリニューアルしたいと考えております。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

益田議員。

○議員 1 1 番 益田美恵子君

それでは、1 項目ずつお尋ねをさせていただきたいと思っております。

特定健診のことにつきまして、先ほど課長のほうからも述べていただきました。大変失礼な質問も、国保の健診率が上がらない理由についてとかお尋ねしておりますが、特定健診につきましては、随分の伸びが資料の中であらうかがわれるわけでございまして、平成 2 0 年度が 1 7. 5 %

平成 24 年第 1 回定例会（一般質問）

だったのが、平成 22 年度には 32% まで上がっているということで、これは 14.5%、相当な伸び率であります。なかなか伸ばす戦いというのは難しいことでもありますけれども、この対策の中でも、以前から見ると項目がたくさん上がっております。出前講座とか、区総会での PR とか、それから健診日程の追加が前年度と比べて 5 回ふえておりますし、39 回を検診日程に追加をされている。

それから、受診者への訪問が約 1,000 人とか、医療機関への協力依頼とか、事業所健診受診者の結果情報を得るとか、老人クラブ、自治会とか促進会への依頼とか、るる本年度も平成 23 年度も努力をされていらっしゃる、その経過は 3 年間で出ているわけではございますが、ただ、他の検診、がん検診とともに率がなかなか上がらないと。

福岡県におきましても、全国 35 位なんですね、健診率の率は。47 都道府県あって 35 位という、本当にがん検診、それから胃がん検診、すべて四十何位とか、そんな状況でございます。

私もよく担当のほうから声をかけられます。あっもう 1 年たったんだなあっていうのが、本当にあつという間に 1 年がたつわけございまして、先ほど答弁の中にも忙しいからできないとか、他の病院にかかっているの、確かに特定健診という理解度が不足しているのではないかな。何か特定健診は特別に何かを別にするような感じで、これは生活習慣病の予防でありまして、これをすることによって私もちょっとメタボになったという、通告をこの前健診で受けましたので、私自身がしっかり改めていかなければいけない、努力しなければならないものでございます。特定健診は 40 歳からですが、40 代、50 代の方というのは、子育て真っ最中なんですね。やはり高校、大学出しておられると、経済的に厳しい動向でもありますので、不況のあおりで、経済的に厳しい面も中にはあるかもわかりません。それは私も経験したことでございますので、高校、大学にやっていると、自分の健診どころではないと、お金の問題に関して、そういったときもございましたので、しかし、自分のことでもありますから、これはしっかり PR をもっと受診をしていただいて、健康管理に気をつけていただく、そのことが今度は国保会計をも支えていくことができるという、自分もいいし、財政をも助けるという、自分たちの税金を投入していくわけですから、その点におきまして随分努力の跡は見られるわけでございますけれども、継続は力なりとありますように、今後、もっと PR のほうに努めていただきたいと思いますがいかがでございますか。

○議長 横尾 武志君

住民課長。

○住民課長 武谷久美子君

確かに議員さんが言われましたように、特定健診の受診率が伸びて皆様が元気になれば病院にかからない。そうしたら病院の医療費も削減につながりますので、住民に周知して、特定健診の

平成 24 年第 1 回定例会（一般質問）

制度のあり方を、ご存じない方が多かったから、そこあたりの特定健診とがん検診の制度について詳しくこれからも啓発していきたいと思っております。

以上です。

○議長 横尾 武志君

益田議員。

○議員 11番 益田美恵子君

それでは、次の胃がん検診について、ピロリ菌検査の導入についてでございますが、まだがん検診に定めていないということでございます。それは確かに国のほうではまだ取り上げておりませんが、公明党の秋野公造議員が、平成 23 年、今年の 2 月 10 日に胃がんとヘリコバクター・ピロリ菌、その関係性を関連を踏まえたがん対策に対する質問趣意書を提出いたしております。

その中で、政府の参考人という方、外山（そとやま）というか、外山（とやま）と言われるのかその辺ちょっと定かではありませんが、ヘリコバクター・ピロリ菌が胃粘膜に感染いたしますと、毒素などを排出することで、胃粘膜の防御機能を低下させ、慢性胃炎を引き起こし、悪化すると胃潰瘍などが発生する。メカニズムは、既に国内外のさまざまな研究などから、科学的根拠を持って解明されておりますという、この菌が胃の粘膜などに感染すると、慢性胃炎とか、胃潰瘍とかになる要素は、これは否定できないと、解明されているということなんですね。

ただ、がんとの関係性というのは、これはまだ定かではないと。その中ですべてのピロリ菌感染者から胃がんが発生するわけではございませんで、特殊な発がんの環境が整って初めて発生するなどの諸説があると認識しておりますというご答弁であります。

だから、がんになる、ならないというよりも、ピロリ菌の検査をすることによって菌があるということであれば、それは希望によっては除菌することができるわけですね。それは除菌にはお金が 2 万から 3 万、保険適用にはなりませんのでかかります。しかし、胃潰瘍とか、慢性胃炎とかいう病名がついていれば、これは保険適用になりますので、まずは胃がん検診のときに 1,500 円検査するのに、血液検査でいいみたいなんですが、検査をすることによって、それにピロリ菌に感染しているということがわかれば、希望であれば除菌をなされればいいし、また、発生するとがんになるという可能性はまだ定かではありませんので、要素はあっても確実な研究結果が出ているわけではありませんので、しかし、ご希望によっては除菌をすることができます。

そのようなことでございますので、何度か胃がん検診のときにピロリ菌検査 1,500 円かかりますが、他の地域においては 1,000 円を自治体が助成をして、本人負担は 500 円ということのところもございまして、このことに対して検討課題に上げていただければと思いますけど、いかがでしょうか。

○議長 横尾 武志君

住民課長。

○住民課長 武谷久美子君

福岡県下でも 1 町村が助成ということで取り組んでいるようです。ただ、このピロリ菌につきましても、国においてもまだピロリ菌との胃がん検診との方法について今研究が行われているとこでありますので、今後、国の動向を注視したいと考えております。

以上です。

○議長 横尾 武志君

益田議員。

○議員 11 番 益田美恵子君

それでは、健診率の近隣市町村の状況、それから国保会計、医療費の伸びが毎年伸びていくわけですが、一般会計からの繰入金がどれぐらいあるのか、お尋ねいたします。

○議長 横尾 武志君

住民課長。

○住民課長 武谷久美子君

郡内の近隣の平成 22 年度の特定健診の受診率は、岡垣町におきましては 40.1%、遠賀町は 31.2%、水巻町は 31.1%、中間市は 20.8%となっております。一般会計からの繰入金につきましては、22 年度は 3,000 万、そして 23 年度も 3,000 万となっております。

以上です。

○議長 横尾 武志君

益田議員。

○議員 11 番 益田美恵子君

今後も一般会計からの繰入金というのは、やはり高齢化も進みますし、特定健診を受けることによって抑制をしていくということで、今後もぜひ努力のほどをよろしく願いいたします。

それでは、2 点目でございますが、3 ワクチン接種実施状況についてお尋ねいたします。

先ほど受診率を述べていただきました。ゼロ歳児は 2 カ月からということですので、受診率は高うございますが、これに該当しないというのか、受けられておられない、漏れてる方、これは大変厳しい状況があるものだと思います。家庭状況もさまざまありますし、その中で残された人をどのように受診していただくかというのは、それは本当に大変なことかも知れませんが、この方々も大事な命です。小さい体であっても大事な命でございますので、今後この方たちにどのような対策をしていくかというのは、今後の課題であろうかと思いますが、子宮頸がんワクチンにつきましては 99.9%、全国平均でも 1,747 市町村のうち 99.9% に当たるところが

平成 24 年第 1 回定例会（一般質問）

実施をしているようでございます。

芦屋町におきましても、対象者が 382 名、292 名が接種をいたしまして 76.4%、数字を見れば、確かに 76.4% ああいつてるなということではありますが、全員の方に受けていただきたいというのが希望でありまして、子宮頸がんは年間約 1 万 5,000 人が発症すると言われております。

約 3,500 人の方が年間亡くなっているという、そのように推定されており、20 代、30 代の女性に急増していると言われております。そのことを踏まえて、この子宮頸がん予防ワクチンというのが、接種することによってほぼ 100% が予防できるという、そのような実態があっても、日本ではなかなか承認が、未承認であったわけでございます。公明党が国会で追及いたしまして 2007 年 10 月に国で初めて承認をされたという、外国では 100 カ国が既に承認をされていたわけでありましたが、日本はなかなか遅い時期に承認をされて、子宮頸がん検診無料クーポン券が 09 年度に実現をしたわけでありまして。

年間このように約 3,500 人の若い命が落とされるわけでございますので、ぜひこのところもよろしくお願ひしたいと思っておりますが、この点については中学から高校生ですので、通知をもって連絡されているのか、個別なのか、ちょっとお尋ねしてよろしいですか。

○議長 横尾 武志君

住民課長。

○住民課長 武谷久美子君

周知なんですけど、中学校のほうにもチラシを生徒さんに配っていただくように配布をしておりますし、また、個別にもはがきで接種してくださいということでお出ししております。

以上です。

○議長 横尾 武志君

益田議員。

○議員 11 番 益田美恵子君

町長の施政方針の中にも、第 4 の中で、小さな子どもや女性の命を守るため、3 ワクチンの予防接種を本年度も実施してまいりますとあります。子を持つ親として心からうれしく思いますし、子育て中のお母さん方に成りかわって感謝申し上げたいなど、このように思います。

それから、あわせまして施政方針の第 3 は、子どもが伸び伸びと育つまちづくりの中で、少子高齢化が進む社会にあって、子育て世帯への負担軽減は喫緊の課題として乳幼児医療費支給制度を芦屋町独自で拡大するというので、通院は小学校 3 年まで、入院は中学校 3 年まで医療費を無料とするのは本当に朗報中の朗報だと私のところには助かりますという電話が、又ファクスが入っておりました。本当に喜んでいただいていると思います。

平成 24 年第 1 回定例会（一般質問）

それから、次にまいります。件名 3 の 24 時間地域巡回サービスについてでございますが、これ私、問題点があるというのが、新聞の報道ですので、これがどうなるかというのはちょっとわかりませんが、ホームヘルパーなどが高齢者の家を定期的に訪問する 24 時間地域巡回型サービスを創設し、住みなれた地域で暮らし続けられるよう後押しをする。それはよろしいんですよね。施設から在宅への移行を促し、生活援助の効率化、ふえ続ける給付費の抑制をねらうものである。24 時間家でお一人住いの人でも家に帰すことがあり得るとい、こういった問題でありますし、先ほど事業所は手を挙げるところがまだ見つかっていない。事業はやるけれども、挙げるところはないというご答弁でございましたが、これは大きな今後の課題ですね。ひとり暮らしや重度の介護でも、自宅で過ごしやすくすることで、施設入所を抑制する効果が期待されるとあるわけですね。これは本当に問題ではないかなと思いますね。

ただ抑制するのみだけを追求しているという、そのようにしかとれないで、私が問題点を追及したいというのは、自立支援を進めるため、老人保健施設では在宅に戻した率が高いほど報酬を手厚くするということなんですね。

そしてもう一つは、重度化予防で、リハビリを積極的に行った訪問介護、事業者や施設事業者に対し加算すると。今までは、施設においては介護度の高い方を入所させてるほうが施設としてはよかったわけですね、よかったというか、経営にはプラスになっていたわけ、ところが、今度は在宅のほうに重視を、報酬を手厚くする、加算するということになったら、これは自宅に帰す方向性で施設がそのような態度を示してくるのではないか。このときにどのようなことを、対応すればいいのか、その辺の自治体においては今後監視をしていただく必要があると思うんですが、今後こういったことの予測されることに対して、課長、どのように思われますか。

○議長 横尾 武志君

福祉課長。

○福祉課長 松田 義春君

ご存じのように介護保険でサービスを利用する場合には、ケアマネジャーが介護プランを立てて、サービス事業所と契約してサービスを受けることとなります。今議員さんが言われるように、施設から自立へという方向に進むということも若干予測はされますが、介護保険広域連合のほうでも、ちょっとその辺を懸念しているところがございますので、対応については広域連合のほうで何か対応策を考えていくというふうなことを申しておりました。

以上です。

○議長 横尾 武志君

益田議員。

○議員 11 番 益田美恵子君

平成 24 年第 1 回定例会（一般質問）

十分今後の動向を見ていただきたいと、このように思います。

それでは、件名 5 番に行かせていただきます。先ほども検討委員会、基本設計が進められているとの事で、びっくりしています。健康で過ごしていただくためには、過ごしていただければ健康保険にも十分保険料の抑制にもつながっていく。何とか元気で長生きをしていただきたい、そういう思いで随分前でしたか、この健康遊具については、私質問をさせていただいた経緯がありますが、何せ遊具一つにしても、多額の金額でございますので、そのときはちょっと無理でございました。

たまたま今度は、このような中央公園リニューアルが施政方針の中でも述べておられましたので、小さな子どもから高齢者の方まで楽しみ、憩える公園となるよう実施設計を行ってまいりますということで、課長の答弁の中にこれは繰り入れると、中に入れ込みますというご答弁がございました。

ただ、器具が以前健康遊具を入れたもののなかなかそぐわないということで、北九州が行ったのが、研究を重ねていったわけですね。これは北九州市が健康づくりを支援する公園整備事業というのと、それから公園で健康づくりモデル事業、2つの事業を展開し、高齢者の健康づくりを後押しするという事業が今進められているわけです。それで、研究を重ねて行政と、それから専門家の方の協力を得て、どの遊具が高齢者にとって健康づくりのためにいいのかということ調べて、それで遊具を特定して設置したようでございます。

その中で健康づくりモデル事業でございますので、私は前日の議会の後に花美坂と花野路の間に公園がありまして、そこに遊具が設置されていますということで、課長から伺ってございましたので、北九州は夜宮と勝山と藤松ですかね、向こうの門司、その3カ所とそこがあるんですが、遠いところまで時間がなくて行けませんでしたので、見させていただいて、カメラにおさめてまいりました。

そこにはちゃんと注意事項も、やり方も書いてあります。読んだだけではわからない。高齢者の方は目の不自由な方もいらっしゃいましょうし、そこに指導的立場の方、講師役の方が、北九州スポーツクラブ連絡会のメンバーが講師役となって遊具の使い方や運動方法を教える運動教室も開催しているということでございます。こういった運動教室も取り入れられたらと思うんですが、課長さん、いかがでしょうか。

○議長 横尾 武志君

環境住宅課長。

○環境住宅課長 入江 真二君

設置する健康遊具については、具体的には実施設計等でどういった遊具をつけるかということが決定されることとなります。

平成 24 年第 1 回定例会（一般質問）

また、おっしゃられるように、健康遊具というのはいろんな種類の健康遊具がございます。背中を伸ばしたりとか、腹筋したり、肩を回したり等々のものがございまして、実際に器具を見ただけではどこをどうしたらいいかわからないというような器具は多うございます。そういう意味では住民課のほうとも連携して、どういった使い方をするかというのは今後検討していきたいと思っております。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

益田議員。

○議員 11番 益田美恵子君

先日、高齢化率の質問があつてご答弁なさっておられました。北九州も 2030 年度には、3 人に 1 人が 65 歳以上になるだろうという、芦屋町も 23% でしたか、高齢化率が進むわけでございますので、健康づくりが医療費の抑制につながるということで考えを、発想の転換をもう一度やっていただいて、健診のほうもともに進めていただく、そのような方向性をお願いをしたいと思えます。

最後でございますが、先ほど乳がん検診のことでちょっと、乳がんのステージ別医療費というのが参考までに述べさせていただきたいと思えます。

例えばステージ 1 期で、治療内容といたしまして乳房切除、これは全摘なのかちょっとわかりませんが、年間の費用が 101 万 9,000 円、5 年相対生存率は 98.9%、だから早期発見すれば 98.9% の人が生命を生存することができる。

2 期になりますと 93.3%、3 期、4 期になると 71.3% という生存率、4 期のステージ 4 になりますと、これは費用も 397 万 6,000 円ではありますが、31.4% の生存率ということになりますので、やはり早期発見と、ここにいらっしゃる方は若い人見たら、検診を受けましたとか横に広げる。本当に地道であっても、言い続けることしかないのではないかと思います。担当課は本当に努力に努力を重ねていただいております。浜口区にも来ていただいたこともありますし、組長寄りにも来ていただいたり、総会にも来ていただいたり、あらゆる努力を惜しまずやっておられますので、私たちも検診率が上がることに努力を傾注していきたい、このように思えます。

本日、質問はこれで終わります。以上です。

○議長 横尾 武志君

以上で、益田議員の一般質問は終わりました。